

株式会社カウネット様



株式会社 カウネット 取締役 常務執行役員 事業サービス部長 中野浩志氏、情報システム部 横田啓啓(よしひろ)氏



株式会社 カウネット

コクヨ株式会社（以下、コクヨ）の子会社として2000年10月に設立。オフィス用品の通販ビジネスを中心としたサービス展開により、オフィスから個人に至る幅広い顧客のニーズに対応。近年では、企業の総務担当者や働く女性を支援するコミュニティサイトを運営するなど、事業領域を拡大している。

- 代表取締役社長：勝村 真信
- 従業員数 143名（2009年12月末現在）
- <http://www.kaunet.com/>

認証印刷ソリューション「EcoGate Print」の導入で 情報漏えいの要因となる“放置印刷物”を根絶。 セキュリティ強化に加え利便性・運用性も向上。

オフィス用品の通販ビジネスを中心としたサービスを展開する株式会社カウネット（以下、カウネット）。同社では、情報漏えい対策の強化に向け、認証印刷ソリューション「EcoGate Print」を導入しました。これにより、“放置印刷物”や“印刷物の取り間違い”といった情報漏えいのリスクを大きく低減するとともに、“どこでも印刷”などによる利便性の向上や全社の印刷状況の把握など、様々な効果を得ることができました。

導入製品

EcoGate Print

ICカードを利用した認証印刷機能を提供するソリューション。プリンタのメーカーや機種を問わず、既存環境に追加導入するだけで利用可能で、放置印刷物による機密情報の漏えいを防止します。また、印刷枚数などを部門や個人単位で見える化する機能も装備し、社員の印刷コストや環境に対する意識の向上にも貢献します。

導入のポイント

- ICカードによる認証印刷で“放置印刷物”を根絶**
 印刷をする際には、実際にプリンタに向いてICカードで認証を行った上で出力するという運用が定着。情報漏えいリスクである“放置印刷物”や“印刷物の取り間違い”を排除することができました。
- 印刷に関わる社員の生産性が大きく向上**
 状況に応じて、どのプリンタでも自由に出力できるなど、印刷に関わる社員の生産性が向上。急ぎの資料を出力する場合も、空いているプリンタから印刷できるため、“出力の順番待ち”をすることもありません。
- 社内における印刷状況の“見える化”を実現**
 部門や個人単位で印刷枚数などを“見える化”できる環境を実現。印刷コストの削減や環境対策に向け、新たな取り組みを推進するための基盤が整備されました。

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために



取締役 常務執行役員
事業サービス部長
中野 浩志 氏

情報漏えいリスクとなる “放置印刷物”の問題解消が課題

コクヨの子会社として2000年10月に設立されたカウネット。今年で設立10周年を迎える同社は、オフィス用品の通販ビジネスを中心としたサービス展開により、オフィスから個人まで幅広い顧客のニーズに応じてきました。

業務の性質上、顧客に関する企業情報や個人情報を取り扱うため、顧客情報については、徹底した管理を実施。個人情報の保護に関する法律施行直後の2005年5月にプライバシーマークの認証を取得し、それに準じたマネジメントシステムを運用してきたこともその一例です。

「このような施策を継続的に行ってきたものの、課題が完全になくなったわけではありません」（中野氏）。さらに頭を悩ませていたのは、ビジネス拡大に伴って増加する帳票、文書類の“放置印刷物”の問題でした。同社では、社員が各パソコンから必要な文書の印刷指示を行い、プリントサーバに接続された複合機3台、プリンタ5台を使って印刷するという運用がとられています。この際、出力された書類がそのまま放置されていたり、他の人が出力したものを誤って持って行ってしまふ“印刷物の取り間違い”なども発生していました。中には、機密性の高い情報もあるため、こうした状況の解消が重要なテーマとなっていたのです。



情報システム部
横田 啓啓 (よしひろ) 氏

既存資産をそのまま活用できる マルチベンダー対応がポイント

そうした中、カウネットが目にしたのがICカードによる認証印刷でした。「このソリューションは、パソコン上で印刷指示を行った本人がプリンタに向き、ICカードによる認証を行って、はじめて印刷物が出力されます。つまり、必ず目の前で印刷が行われるので、印刷物の放置はもちろん、取り間違いの問題も解消できると考えたのです」（中野氏）。

早速、カウネットでは、市場に出ている製品の調査を開始。綿密な検討の結果、同社が選んだのが株式会社富士通アドバンスエンジニアリングの提供する「EcoGate Print」でした。「当社のプリンタ環境は、

複数のベンダーの機器が混在しています。しかし、他の製品で認証印刷を実現する場合は、ベンダーを統一する必要がある上、プリンタ自体の入れ替えて膨大な費用がかかるといった問題がありました。その点、『EcoGate Print』は、マルチベンダー環境を前提にしており、その構築費用も圧倒的に安くなります。また、入退館の管理に使用していたFelicaベースのICカードをそのまま利用できる点も魅力的でした」（横田氏）。そのほか、社員の入社や退職に伴うICカードの発行・破棄に連動して、システムへのユーザー登録や削除が容易に行えるといった運用上のメリットも高く評価されました。

放置印刷物や取り間違いがゼロに 利便性・運用性の向上にも貢献

同社が「EcoGate Print」の採用を正式に決定したのが2009年12月。1ヶ月間の試用を経て、2010年2月に本格運用が始まりました。現在では、計8台の複合機、プリンタの印刷制御にICカードによる認証が適用され、約150名の社員が利用しています。

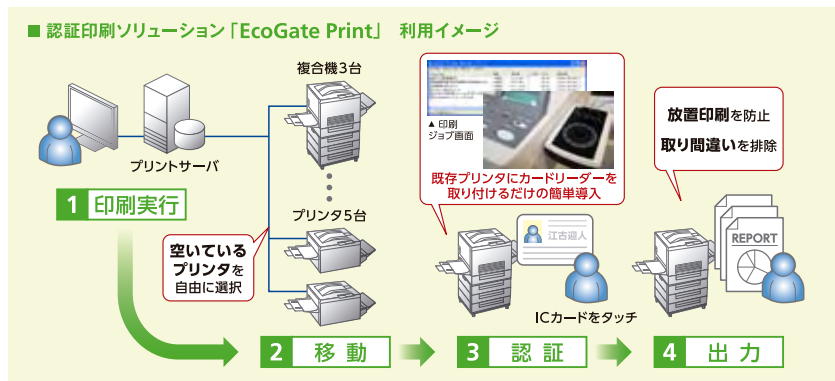
「導入の結果、これまで後を絶たなかった放置印刷物や取り間違いの発生は、ほぼ皆無になりました。また、本ソリューションの導入により、社員の放置印刷物のリスクに対する意識が高まったことも大きな成果です」（中野氏）。

さらに、「EcoGate Print」の導入は、社員の利便性向上にも貢献しています。具体的には、“どこでも印刷機能”により、ユーザーが各プリンタの状況に応じて、出力先のプリンタを自在に選択できるようになりました。例えば、急ぎの資料を出力する場合も、“出力の順番待ち”をせずに効率的に出力可能です。

一方で、システムの運用負荷も低減されています。これまでプリントサーバ上の印刷ジョブにエラーが発生すると、それ以降のジョブがすべて“待ち状態”となるため、情報システム部員がわざわざサーバールームまで出向き、問題のジョブを削除する必要がありました。

「これに対し、現在では、個々のユーザーがそれぞれのPCからエラージョブを削除できるようになり、一つのエラーが元で印刷がストップすることもありません」（横田氏）。

さらに、新たな取り組みを推進していくための基盤が整備されたことも大きな成果です。「『EcoGate Print』は、部門や個人といった単位で印刷枚数やモノクロ・カラー、両面・片面といった印刷傾向などを詳細に“見える化”できるレポート機能を備えているため、現在の印刷状況がすべて把握できます。今後はこれを活かした取り組みを検討していきたい」（中野氏）。このようにカウネットでは、今回導入した「EcoGate Print」をベースに、印刷コストの削減や環境対策をはじめとした新たな施策を積極的に行っていく考えです。



記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。記載されている内容は2010年6月現在のものです。予告なく変更する場合があります。

株式会社富士通アドバンスエンジニアリング

ソリューションビジネス推進本部
〒163-1017 東京都新宿区西新宿3丁目7番1号
Tel: 03-5324-1601 Fax: 03-5324-1651
<http://jp.fujitsu.com/fae/>



古紙リサイクル配合率100%再生紙を使用



植物性大豆インクを使用

CSS1002-01 2010年7月 CP